

公益財団法人 中山道広重美術館設立趣意書

江戸時代、五街道の一つとして経済、文化そして地域づくりに重要な役割を果たした中山道。恵那市は、江戸から数えて46番目となる大井宿を擁し、美濃16宿の代表的な宿場町として、一番のにぎわいを見せていたといえます。しかし、この中山道も時代の移り変わりとともに、往時の面影も次第に少なくなり、宿場町としての文化も、人々の心から忘れ去られようとしています。また、宿場町から発展し繁栄を誇った恵那市の中心市街地も、空洞化が進み、都市中心部としての活力を低下させつつあります。

現在、恵那市では、恵那駅周辺の再整備事業を進めており、駅前広場や情報交流施設、商店街が整備されました。そして、これら一連の恵那駅周辺の再整備事業を締めくくる事業として、市内の篤志家から寄贈を受けた歌川広重の浮世絵版画「木曾海道六拾九次之内」を基本展示とする中山道広重美術館が整備されることになりました。

江戸時代後期の浮世絵師歌川広重は、「東海道五拾三次」、「木曾海道六拾九次之内」等の作品で著名で、特に風景画の第一人者として世界的に認められており、大井宿も「木曾海道六拾九次之内」の舞台の一つとなっています。

そこで、中山道広重美術館では、世界的に名高い歌川広重の浮世絵作品を収集、保管、研究し、広く一般公開することにより、世界に向けて恵那の町や文化を情報発信していこうと考えています。また、浮世絵や歌川広重に関する講座の開催をはじめ、地域の芸術文化の振興に資する各種の教育普及事業を進めます。こうした活動とあいまって、市民の間に芽生え始めた中山道の街道文化を生かした自主的・主体的な活動と呼応したまちづくり活動の展開に努めます。そして最終的には、地域文化振興の取り組みを、市街地のにぎわい再生や商業活性化に結び付けたいと考えています。

私たちは、このような計画を実現させるために中心となる組織の必要性を痛感し、「公益財団法人中山道広重美術館」の設立に思い至りました。この公益財団法人が築こうとしている浮世絵、街道文化を基盤とした文化活動は、地方都市にストックされている歴史・文化資源の活用と地域振興のモデル事業となるよう取り組みたいと考えております。関係各位におかれましては、この財団の設立趣旨を十分ご理解いただき、積極的にご参加、ご指導くださいますようお願い申し上げます。